

制作・問い合わせ先

埼玉県高校図書館フェスティバル実行委員会
HP : <http://shelf2011.net>
Twitter : @shelf_20110219
Facebook : <https://www.facebook.com/shelf2011/>

制作協力 (パンフレット印刷) 社会福祉法人 埼玉福祉会

----- 埼玉福祉会の新商品 -----

やさしく読めるLLブック



ぼくの家はかえで荘
2016-0001 ￥1,300 (+税)
ぼくは、かえで荘からバスにのって、近くの学校に、かえで荘はじまりました。
紙面イメージ

「LLブック」とは、知的障がいや学習障がいをお持ちの方を含めた、誰もが読書を楽しむための、「やさしく読みやすい本」です。写真や絵記号をつかうなど読みやすくするための工夫がされています。

お問い合わせはコチラ⇒ shohin@saifuku.com

詳細は、内側の面をご覧ください。

- 10位 また、同じ夢を見ていた 住野よる/双葉社
- 10位 小説 君の名は。 新海誠/KADOKAWA
- 9位 アレキサンダーとぼくら 有川浩/講談社
- 8位 学校が教えないほんまどうの政治の話 斎藤美奈子/筑摩書房
- 7位 ツバキ文具店 小川糸/幻冬舎
- 6位 東京會館とわたし 辻村深月/毎日新聞出版
- 5位 コレに人間 村田沙耶香/文藝春秋
- 4位 タスキカバ 額賀滄/小学館
- 3位 陸王 池井戸潤/集英社
- 2位 蜜蜂と遠雷 島田隆/幻冬舎
- 1位 翻訳できない世界のこぼれ エラ・フランス・サンターヌ 著、前田まゆみ 訳/創元社

埼玉県の高校図書館司書が選んだ
イチオシ本 2016

埼玉県の
高校図書館
司書が選んだ
イチオシ本

2016年版

★ 2017年2月発表! ★

Take Free

埼玉県の高校司書は専任・専門・正規の形で学校図書館に配属され、高校生に魅力的な本を紹介するために、日々、図書館活動を行っています。過去1年間に出版された本の中から、高校生に読んでほしい本を投票するこの企画も、今年で7回目になりました。今年は特別企画として「コミック部門」を設けました。コミックも学校図書館の大切な学びの資料です。企画の詳細は、HPを御覧ください。今年もアンケート作成にあたり、ベスト10の著者や編集者の方からコメントを寄せていただきました。また、多くの書店・図書館にイチオシ本フェアを実施していただいたり、この場を借りて御礼申し上げます。

★イチオシ本について★

★★★★★ まだまだあります! イチオシ本 ★★★★★
借しベスト10には入りませんでした、司書イチオシの本たちです。

日本の給料&職業図鑑 (給料BANK/宝島社)
◆お給料に関しては多少高く設定している気はしたが、イラストに生徒は食いついてました。◆給料が載っている本は意外と少ない。進路選びの参考の一つにはなるかも。◆お金は大事なのに、聞きにくい。職業を給料から切り込んでいて、オモシロい。◆インパクトで手に取る生徒が多かったです。個人的にお気に入り、高速道路の料金所の人。
となりのイスラム (内藤正典/ミマ社) ◆イスラムについて知りたいという子が来たら一番に薦めたい本。◆棚に置きたいと強く思った本です。◆「イスラム教徒」と聞くと、条件反射的に「怖い」と思ってしまいませんか?それは、「イスラム教」を知らないからだということがわかります。現代の必読書です!
誰も知らない世界のこぼれ (エラ・フランス・サンターヌ/創元社)
◆解説とイラストの組み合わせがおしゃれです。世界を旅する詩人さんになったつもりの気分を味わえます。前巻『翻訳できない世界のこぼれ』もあわせてオススメ。◆その言語でなければニュアンスがうまく表現できない言葉があります。特に、こぼれはそれぞれの文化も反映されるので、理解することが難しい場合があります。でも、知ることによって世界がぐっと広がる、そんな気にさせてくれる本です。
◆日本と日本以外の国の価値観の違い、表現方法を知ることができる。
このあとどうしちゃう (ヨシタケシンスケ/プロズ新社)
◆死に方を考えることは今どう生きていくにつながるような気がします。楽しみながら「生きること」を考えることができます。
◆とっとり秋の読書大賞でグランプリをとっていたので迷ったのですが、やはりいいものでしたので投票いたします。ヨシタケシンスケさんの絵は高校生にとってもユーモラスでとっつきやすいようで、本嫌いな生徒が自ら取って行きます。読み終わった後、「よかった〜深い〜」と嬉しそうに返却する姿が印象に残っています。
グ切本 (左右社編集部/左右社)
◆文豪の言い訳が楽しい! ◆作家たちの知らなかった一面が垣間見える一冊。
進化くん (マラ・グランバム/飛鳥新社) ◆生きものの世界は、なんだかすごいと感じる一冊 ◆へんないきものを堪能できます。早川いづさんの超訳が楽しい。
ぼくは君たちを憎まないことにした (アントワーン・レリス/ポプラ社)
◆とにかく、読んでほしい。忙しい3年生は、著者が事件の3日後、フェイスブックに投稿したテロリストへの手紙(64頁〜66頁)だけでもよいので、読んでほしい。
◆世相を感じさせる本だったため。
活版印刷三日月堂 星たちの葉 (ほしおさなえ/ポプラ社)
◆心温まるストーリーもさることながら、昔ながらの活字の魅力、実物を見るかのように感じられる描写力もすばらしい。◆表紙が素敵、文庫で、同じ県内の川越が舞台というだけでも生徒も興味を持って手に取りやすいのではないのでしょうか。文章も読みやすいですし、とても優しいお話なので安心してすすめられます。
ロボのサイン会 (吉野万理子/光文社) ◆いろいろな動物視点の物語8編が、どれも切ない。◆ラジオドラマになった作品もあり、おすすめです。
アンと青春 (坂本司/光文社) ◆『和菓子のアン』の続編。和菓子に纏わる小さな謎や事件を通して人間的に成長していくアンちゃんを通して、働くことについて考えさせられる。「乙女」なイケメン立花さんのキャラクターが良いのです。
◆和菓子の豆知識など、ストーリーの面白さ以外にも楽しめるお話。
YO! サボロー あつ「黒いやつ」、大解剖 (サボロー会議/文藝春秋)
◆毎日たくさんの高校生のYDK(やればできる子)が勉強に部活にバイトに精を出しています。この本は、そんなYDKをサボローの道へ誘惑する「サボロー」を紹介している本です。自分に厳しく常に忙しく生活しているYDKは、この本を読んでいる間だけでも、「サボロー」と一緒にゆっくり「サボって」みませんか。
◆そっと近づくと黒いアイツはとんでも厄介で、誰のそばにも近づいてはく。付きあいたいので、どうにかしたい。◆きつとそれはあなたらしい。
リーダー論 (高橋みなみ/講談社) ◆部活動で部長・副部長をしている人たちにピッタリ。◆500人にもなるAKBグループの総リーダーを任せられたかみなみの努力・情熱と、冷静に仲間を見て、一人一人に寄り添う言葉をかけられる心づかいがすばらしい。部長さんにおすすめ。

私の消滅 (中村文則/文藝春秋) ◆人間の記憶って確かなものではなく、あやふやなものだと考えさせられました。◆物語の世界にすぐ入りこめて、一気に読んでしまいました。読み終わった後、もう一度読み返したくなるような小説です。
アウシュヴィッツの図書館 (アントニオ・G・イトゥルベ/集英社)
◆たった8冊の本。アウシュヴィッツに存在した秘密の図書館と少女の話に、本の持つ力や生き方について考えさせられます。◆最初は表紙とタイトルに惹かれて手に取る。ただ、アウシュヴィッツの強制収容所の話ということで、読み進めるのは辛い。たった8冊の本を命がけで守る少女を通して、本や学ぶことが希望になることもあるのだと気づいてもらえたらと思う。
海に見える理髪店 (萩原浩/集英社) ◆妻と夫、父と息子などの家族関係を通して儚い家族の日々を描く小説集。ほっこり泣ける。◆伏線の使い方が絶妙。
ジニのパズル (崔実/講談社) ◆在日韓国人の少女・ジニが見ている世界、生きる姿、苦しみ戦う姿を鮮烈に描いた作品。同じく在日の女性である作者だからこそ書ける、瑞々しく熱気をおびた文章に引き込まれる。一人の少女の青春小説としても心に残る。民族、人種、性別…「差別」の存在に人々が目を逸らす日本で、今だからこそ読んでほしい作品。◆中学生になって、朝鮮学校に通うことになったジニ。二つの国の間を生き抜く少女の姿を日本の高校生にも。
人生の答えは家庭科に聞け! (堀内かおり/岩波書店)
◆本書のもとになっているのは、NHK高校講座「家庭総合」。同性カップルにパートナーシップ条例や要綱が制定されたことや同性カップルが国際養子縁組で迎えたことなども一緒に暮らす本が紹介されています。
世界一清潔な空港の清掃人 (新津春子/朝日新聞出版) ◆清掃業はあまり憧れられないことのない場合によっては差別される場合もある仕事ですが、どんな仕事であっても誇りをもつことができるということが再確認できる作品だと思います。
子宮の中の人たち (EMI/KADOKAWA)
◆「子宮の仕事ってどう?」「月一だし超ラクだよ」「いいな〜わたし胃だけどめっちゃ忙しい」「おい大変だ!」「なんだ!」「?」……受精卵が来る!! 1ページ目からもうおもしろい、「んなアホな」と「マジかよ」でぐいぐい読んで最後はなぜかじんとする、妊娠エッセイの傑作です。
明日の食卓 (椰月美智子/KADOKAWA)
◆虐待や親子関係をテーマにした本は今年もたくさん出版されましたが、その中でも話の展開が読者をひきつけてラストが素晴らしい。◆魔法を学んでいること! 漠然と感じている不安が整理でき、未来へ向けた考え方が学べる本。
リベンジボロボロ (渡辺真由子/弘文堂) ◆被害にあった時に被害者が責められる風潮はどこからくるのか、どうしてそうなるのかを考える一助となる本。具体的にどういう手口を使うか書いてあるので、ぜひ読んでおいてほしい。
五色の虹 満州建国大学卒業生たちの戦後 (三浦英之/集英社)
◆五族協和を目指した建国大学卒業生の戦後を追ったノンフィクション。エリートだった彼らがそれに見合った人生を送っていないことに愕然とする。国による違いも切ない。しかし、ここで学んだ教育が一生を支えているという事実を胸を熱くする。
パンダを自宅で飼う方法 珍獣ペット化シミュレーション (白輪剛史/文藝春秋)
◆ねえねえ、自宅でパンダって飼えるの? ソウのえさっていくらかかるの? そんなアニメルケエクションの文庫本。さらに刺激的なのがフラインゴからコウテイペンギンまで仰天動物たちと共生できるか? 動物あるある、そんなのなしなしの雑学集。これを読破すれば動物園に行きたくなっちゃう&お気に入りの動物を連れて帰らなくなっちゃうぞ。
動物ほんぽん (trikotri/誠文堂新光社) ◆とにかくかわいい! 自分のなかでは「かわいい本・オブ・ザ・イヤー」です。思わず、パンダとくまを自作しました。
16歳の語り部 (雁部那由多ほか/ポプラ社) ◆「今、読んで欲しい」という視点で考えたら、この本が真っ先に思い浮かびました。
最後の秘境 東京藝大 (二宮敦人/新潮社) ◆東京芸大あるあるネタだけでなく、芸術を学ぶということについても考えさせられます。

ここで紹介しきれなかったイチオシ本とランキングの詳細は
埼玉県高校図書館フェスティバルのHPに掲載しています。
<http://shelf2011.net/>

特別企画
コミック部門

イチオシ本はコミックの投票もOKなのですが、なかなかランキング入りすることがありません。そこで今年は特別にコミック部門を設けてみることにしました!
投票で選ばれた2016年のイチオシコミックは……?

はたらく細胞 清水茜/講談社 刊 ￥600

◇清水茜さんご本人からコメントを頂きました◇
この度はありがとうございます。学生の皆様に読んでいただき、勉強の役に立てただけというのは、本当にとても嬉しいです。ちょっとでも生物の授業が楽しくなるといいなと思って作りました。学校の勉強はとんでも大変だと思いますが、思いがけない形で役に立つことは度々ありますので、どうぞ無理せず楽しく取り組んで下さい。